



いなば こうじ
稲葉 晃司
(超党派虹の会)

消防

2004年7月から一般の人がAEDを使用できるようになってから20年が経過し、富士宮市のこれまでを振り返る

問 これまでに普通救命講習を受講した市民の延べ人数と富士宮市内でAEDを使用して救われた命はどれほどか。

消防長 AEDの取扱い内容を含めた普通救命講習開始時期の平成17年6月から令和7年5月の期間で普通救命講習の受講者は15,041人、ほかの救急講習受講者を含めると45,986人。また、市内でAEDを使用して救われた命は令和2年から令和6年の期間でAEDで除細動の手当てを受け、生存状態で退院した方は16人。

問 令和7年度は市内の小中学校にAEDが各1台増設されることから、小学校高学年を対

象にした普通救命講習導入講座の実施、中学生を対象にした普通救命講習の実施を提案する。当局の見解は。



教育長 小学校では地域消防団と連携し危機管理教育を実施している。令和6年度では市内21校中10校が実施、令和7年度では13校が実施予定。AEDが各校に増設されることからこの取組の意義を積極的に呼びかけ市内の全ての小学校で実施できるよう働きかけていく。市内の中学校13校中11校では、消防職員を講師に招いたり、養護教諭と連携し体験的に救命講習の実施をしている。残りの2校に対してこれを機に早速、体験的な救命講習の実施を呼びかけたいと考えている。児童生徒が救命に関する知識と命の大切さについて学ぶことは大変重要なこと。今後、各校に積極的な取組をお願いする。



ひらした なおき
平下 尚己
(明和)

教育

公立小中学校図書室の充実について

問 小中学校図書室の蔵書数と更新状況は。

教育長 小学校143,217冊、中学校98,344冊で、更新は各小中学校にて判断している。

問 文部科学省が定める「学校図書館図書標準」との比較において、本市の整備状況は。

教育長 小学校7,103冊（達成率95.3%）、中学校22,696冊（81.2%）で達していないが、単に環境として冊数を増やすというのではなく、質も高めていきたい。

問 人気図書の複本化について。

教育長 複本化の対応が最良ではあるが、各小中学校に委ねていきたい。

問 情報系図書（図鑑など）の更新について。

教育長 最新の知識や情報が求められる分野であるが、1人1台端末を活用してほしい。

問 図書購入にかかる予算とその運用の実態について。

教育長 図書購入実績と児童生徒数を基に小中学校別に予算確保している。

問 電子図書の導入と活用について。

教育長 市立図書館において、市民向けの電子図書館サービスについて調査検討を進めており、実現できれば、図書館のカード、IDでアクセスでき電子図書を借りられる可能性がある。

問 電子図書導入における著作権の課題と対応について。

教育長 学校向けの電子図書館サービスのニーズを丁寧に聞き取りながら、著作権の課題や運用コスト面も含め検討したい。

要望 あらゆるこどもたちの、心地よい居場所としての学校図書室を要望します。

